

保護者のレスパイトケアを通じた 児童虐待の発生予防

一般社団法人 merry attic



「力になりたい」に、はじめの一歩を。



法人名	一般社団法人merry attic（メリーアティック）
設立	平成28年6月
基本理念	子どもに関わる社会課題への実践的挑戦の中で後進を育み、次世代に託します
代表者	代表理事 上田馨一
所在地	埼玉県戸田市新曽397 メゾンサファイア110
主な事業内容	放課後児童健全育成事業/放課後こども教室/障害者委託訓練事業/子育て支援短期事業/次世代教員養成プログラム TEST/子ども食堂
従業員数	68名（2022年10月現在）

独立型子どもショートステイとは

ショートステイとは、児童虐待の発生予防に向け、児童養護施設等の本体施設の空いた居室を利用して利用児童を受け入れる制度のこと。独立型子どもショートステイは、本体施設を有さず、単独で事業を運営する。これにより、従来のショートステイ事業により発生する各ステークホルダーの課題を解決し、児童虐待の発生予防に有用な事業となる。

独立型子どもショートステイの取り組む課題

1. 児童相談所での児童虐待対応件数

児童虐待件数は9年で3倍と急増しており、対応すべき喫緊の課題になっている。



引用元からの作成
引用元:『厚生労働省 令和3年度 児童相談所での児童虐待対応件数(速報値)』J. P1
リンク: <https://www.mhlw.go.jp/content/11900000/000987725.pdf>

独立型子どもショートステイを社会の当たり前にするための4つのステップ

- step1. 独立型子どもショートステイの実証運営
- step2. 子どもショートステイ事業における制度運用の最適化に向けた政策提言
- step3. 独立型子どもショートステイの政策の運用を広めること、及び政策の洗練をするための取り組み
- step4. 親と子のあしたに向けた支援

4step内における助成事業の位置付け

京都市で行なっている独立型子どもショートステイ事業を、どこの地域でも、その地域のニーズに合った形で運営できるようにすること。これを達成するために、本助成事業では、新たな地域での実証運営を開始した。

実施地域の課題

- 戸田市内にて学童クラブを5年間運営してきた中で、利用する保護者より、育児疲れに直面する声を聞いてきた。
- 子ども家庭相談延べ件数としては、2010年度の3,596件から2018年度に9,696件まで増加しており、特に近年増加のスピードが加速している。2014年度までは増減を繰り返している状況であったが、2014年度からは3倍以上にまで相談件数が増加している。
(引用:2019年度まちづくり戦略会議:「戸田型15年教育」の実現に向けた調査研究)

助成事業の目的

- 一時的に宿泊を伴って養育を代わることで、保護者の育児疲れに対するレスパイトケアにつなげ、児童虐待の発生予防を行うこと
- すでに事業を実施している京都市とは異なる地域で、実証運営を行うことにより、地域ごとに異なる課題の、有効な解決手段となるかどうか検証を行う。

実施概要:スケジュール

利用相談

受け入れに当たって、アレルギーや、一人入浴の可否、配慮すべき点があるかどうか事前ヒアリング

1日目

土曜日夜頃、受け入れを行う。食事をとった後に入浴を行う。その後、自由時間を経て就寝。

2日目

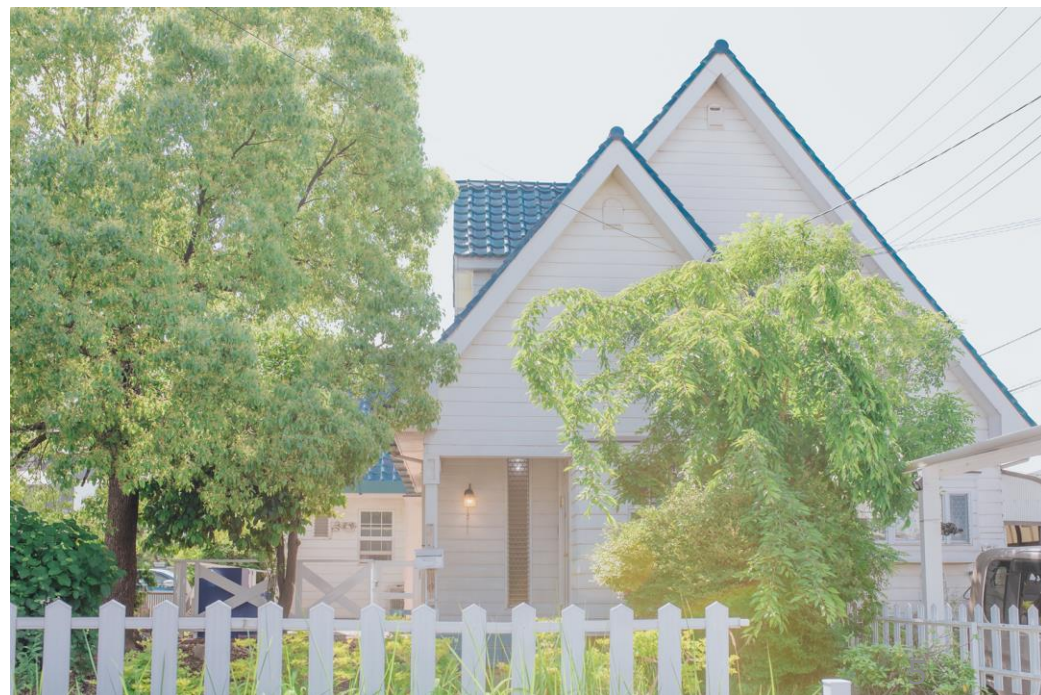
朝起床後、歯磨きや洗顔などを行い、朝食をとる。その後は自由時間とし、お迎えの時間まで過ごす。

コロナ禍での工夫点

- 入所前の検温の実施
- 手洗いうがいの徹底
- 食事時のパーテーションの設置

他団体との連携

- 実施にあたって広報の依頼(予定)
- 寄付物品の募集



得られた量的成果

- 実施日数:13日
- 延べ利用人数:50名

得られた質的成果

- 実際に利用した保護者の声
 - 子育てを始めて、久しぶりに子育てから解放された時間を過ごすことができた。
 - 子どもが普段苦手で食べるができなかったものを食べに行くことができた。普段子ども中心の生活になっているので、リフレッシュになった。
- 実際に利用した子どもの声
 - 友達とのお泊まりが楽しい。
 - お母さん、お父さんがいなくても寂しくなかった。

残された課題

- まず1年目は事業の立ち上げとして、少人数の受け入れからスタートを行なったが、受け入れ人数を増やしていくことへの難しさを感じている。

課題の要因

- 受け入れに当たって、家族同士の関係性の調整や、子ども同士の仲の良さなどを考慮する必要がある。
 - 同じ学区内の家庭の受け入れを行うため、京都市で行う事業では発生しなかった課題が露見した。
- スタッフ数に対して、安全に保育できる人員の限界がある。

新たな受益者の課題、ニーズ

- 京都市で主な利用者層となっていた、ひとり親世帯、生活困窮世帯のみならず、「子育て世帯」で、子育て疲れが発生していて、レスパイトケアに対するニーズがある。
 - 戸田市は核家族が多い地域になっており、近くに頼れる親族等がないことも要因となっている可能性があるため、この点を今後調査する。
- 発達に課題を抱える子どもに対する合理的な配慮を行うなど、加配が必要なケースへの対応を行う必要がある。
- 食育の観点からも夕食等の調理を行なっていきたいが、手が回っていない現状がある。
- 同性支援や、スタッフに求められる専門性などを担保していく必要がある。

